



TITLE:

朝鮮統治の根本問題

AUTHOR(S):

山本, 美越乃

CITATION:

山本, 美越乃. 朝鮮統治の根本問題. 經濟論叢 1919, 9(3): 427-435

ISSUE DATE:

1919-09-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127569>

RIGHT:

京都帝國大學經濟學會 經濟論叢

第九卷 第三號

大正八年九月一日發行

論說

農家者流の經濟思想……………

文學士

小島 祐馬

住居稅の利害と高級住居稅の提案……………

文學博士

神戸 正雄

經濟的行爲と道德的行爲との關係……………

文學博士

田島 錦治

社會政策上より觀たる吾國の財政……………

文學博士

小川 郷太郎

時事問題

同盟罷業の頻發……………

文學博士

戸田 海市

朝鮮統治の根本問題……………

文學博士

山本 美越乃

銀行の手形引受制度……………

文學士

大森 研造

雜錄

米價の高低と一般物價の高低……………

文學博士

河田 嗣郎

社會問題評論(二)……………

文學博士

神戸 正雄

和田垣、内田兩博士の永眠を悼む……………

文學博士

神戸 正雄

京都帝國大學經濟學部規程●經濟學部大正九年度授業擔當

朝鮮統治の根本問題

山本美越乃

(一)

多年鬱積せる朝鮮の統治上に於ける一大暗雲の本年三月終に獨立運動となりて雷鳴驟雨を伴ふの不幸を見るに至りしより以來、朝野の視聽は著しく植民地統治の問題に集注せられ、從來比較的閑却せられたる該問題の遽かに世の注意を惹くに至れるは、時機些か遅きの感なきに非ずと雖ども尙ほ之を注意せざるに優ること遙かなりと言はざる可からず、由來植民地の統治には同化主義及自治主義なるもの存するも、同化主義は未だ文化の恩恵に浴したることなき未開の蠻族の棲息地に對する場合の外は其の實效を擧ぐることに難く、或は印度の如く或は朝鮮の如くに現今に於ては其の國力微弱なるより他國の支配を受くるの他途なきに至れるも、嘗ては固有の文化を有し又多年獨立的の發達を遂げたる國民に對しては、其の民族固有の思想・風俗・習慣等を脱して他の民族と同化せしめんとするも到底不可能にして、若し強て之を實行せんと欲せば却て紛擾の機會を多からしむるに過ぎず、況んや今次の大戦に因り民族自決主義なる一新主張の、著しく各民族の

自覺心を促さしむるに至れる時代に於ては、同化主義的政策は結局失敗に終らざるを得ざるが故に、斯かる地方に對しては自治主義を以て臨むの他なく、又假令野蠻未開の種族等の懷息地に於て、現に同化主義を實行しつつある所に在りても、住民の知識の進歩及經濟上の地位の向上に伴ひ、徐々に強制的の同化主義に代ゆるに自治主義を以てすることに注意せざる可からず、換言せば將來の植民地の統治策は過去に於けるが如き母國本位主義若くは專制的同化主義に立脚すべからずして、宜しく自治主義を以て施政の根本方針となさざる可からずとは、從來吾人の屢々主張したる所にして、其の理論上の根據に關しては嘗ては外交時報(大正三年七月一日號)上に、又近くは『戦後の植民地統治策』なる題下に本年一月十一日以後の大阪毎日新聞紙上に既に卑見を公にし置けるを以て、茲に之を再びするの要を見ずと雖ども、吾人の年來の此の主張は、幸にして近時朝鮮統治の將來に關する識者の多數の意見と合致せるものあるを看、自ら顧みて欣快の念を禁する能はざるものあり。

(二)

然れども翻て是等の識者の意見を玩味するも、其の如何なる形式に依りて朝鮮統治の實際政策上に自治主義を體現せしむべきかとの最も重要な問題に關しては、未だ何等の暗示を與へざるが如し、是れ吾人の本論に於て些か卑見の一端を提して識者の批評を仰がんとする所以なり。

若し夫れ吾人の理想とする所を忌憚なく告白せしめば、朝鮮の將來は恰も英國の加奈太・濠洲・南亞等に對する關係の如くに之に自治を許し、所謂自治植民地として兩者の關係を圓滿に持續せしめんとするに在り、(因に、鮮人中には植民地なる語に對して一種不快の念を抱く者あるが如しと雖ども、吾人の茲に所謂植民地とは『某國家が其の本來の國土以外に於て新たに領有したる土地にして、國法上之を本來の國土と同一に取扱ふことなく、特別の形式に依りて統治する地方を謂ふ』との、純學問的の見地より此く呼べるものにして、植民地なる語によりて直ちに南洋其の他の蠻族の棲息地を聯想せしむるが如き、非學問的の意義に於て稱するものに非ず)、即ち將來鮮人間に於ける教育の普及從て知識の進歩に伴ひ、代議制度を認めて其の住民に立法上に參與するの權を與ふると共に、又責任政府をも之を有せしむるの主義に出づるを適當とすべきも、現下の狀勢に於て直ちに此の如き制度を施行せんとするが如きことは、時機尙ほ早しと言はざる可からず、蓋し代議政治は少數の智者若くは自覺者を基礎とせる政治に非ずして、多數の智者若くは自覺者に依る政治ならざるべからず、然らずんば代議政治の名あるも其の實は結局少數者の專制政治に終らざるを得ず、故に代議制度の實行には住民間に於ける教育の普及即ち其の知識の啓發を先行要件となすも、現今鮮人の知識の程度は概して尙ほ極めて幼稚なるを免れざるが故に、將來の施政の方針は先づ鮮人の教育問題に全力を傾注し、之をして依らしむべく知らしむべからず

と云ふが如き姑息なる教育政策は根柢より之を排除せざる可からず。

此の如くにして教育の奨励普及の結果、一般住民の知識の程度代議制度を許すも少數者の専制政治に陥るの危険なき程度に達したる時は、成るべく速かに之に代議制度を許し、併せて責任政府をも組織せしむるの方針に出づるを良策とするも、其の時機の到來するに至る迄は、吾人は中間的の制度として少くとも行政各部に選舉議員の多數を占むる行政評議會の制度を附設するを以て急務なりと信ず。

(三)

固より現今と雖ども官制上よりせば中央行政部に朝鮮總督府中樞院なるもの附設せられ、總督に隸屬して其の諮詢に應ずるの機關たるべきことを定むるも（明治四十三年九月勅令第三百五十五號朝鮮總督府中樞院官制）總督の諮詢事項に付きては何等明記する所なきが故に、其の範圍は全く總督の自由に之を決定し得べく、從て比較的重大なる事項と雖ども總督之を欲せざるか或は又其の必要なしと認むる時は諮詢せずして可なることとなり、結局有名無實に終るのみならず、其の議員の如きも悉く總督の奏請に依る官選議員にして民選議員に非ざるが故に、一言以て之を評せば舊韓國時代の遺物たる貴族階級の養老院若くば授職院と稱するも不可なく、民意の趨向を察して總督の施政に有力なる參考資料を供するよりは、寧ろ官邊に附和して其の扶持に晏如たら

んとするが如き議員を以て組織せらるゝが故に、總督の施政に關する最高諮詢機關たるの資格は之を有せず、故に先づ中樞院の官制を改め、議員の多數は民間有識の人物中より之を互選せしむるの方針を探り、之に少數の官選議員を加へて名實共に完き總督の施政に關する最高諮詢機關たらしむべく、又諮詢事項の如きも豫じめ法令を以て其の範圍を確定し、總督の任意に取捨を決するが如きことなからしむるを要す。

此の如く先づ中央に於ける最高諮詢機關を設けると共に、更に道・府・郡等の地方行政區劃に於ても、現今の如き殆んど有名無實の諮詢機關たる參事制度（明治四十三年九月勅令第三百五十七號朝鮮總督府地方官官制第二十三條第二十四條、同四十四年二月總督府訓令第九號）を廢して之に代ゆるに當該地方に於ける有識中の人物中より互選せられたる多數の民選議員と、少數の官選議員とを以て成れる地方行政評議會の制度を以てすべく、更に此の種の評議會の制度は進んで最小行政區劃たる面に迄之を及ぼし、此くして政府の任命したる行政上の首長は、其の施政上に於ける重要問題に關しては先づ民間有識の人物中より選出したる行政評議會に諮詢して改むべきは之を改め、然る後之を施行せしむるの方針に出づる時は、少くとも現に行はるゝが如き民意に適合せざる施政に基因せる各種の紛争は之を避くることを得べし。

朝鮮統治の根本主義を確定し、此の主義を徹底的に實行し得るに至る迄は、所謂過渡時代の統

治方針として、一方に於ては相當の識見を有し民間に於ける有爲の人物を以て目せらるゝ自覺せる鮮人の希望の一部を容るゝと共に、他方に於ては又智慮極めて淺く動もすれば少數者の威壓に其の不幸を訴ふるの途なきが如き多數人を保護するの主旨より、吾人は政府當局が一大英斷を以て如上の方針を採用せんことを提言して止まず、此の如くにして得たる彼等の自治的訓練は將來教育の普及するに従ひ漸次醇化せられ、終に或時期に達する時は彼等に完全なる自治を許すも毫も支障なきに至るべし。

(四)

論者或は曰く、彼れ英國が加奈陀・濠洲及南亞等に完全なる自治を許すに至れるは、母國又は母國と文化の程度を一にせる國民の移住多きこと之が最大原因を成せり、然るに朝鮮の事情は大に之と異なり、併合後殆んど十箇年の歳月を経過したる今日に於てすら、尙ほ母國移住民の數は土着の鮮人に比する時は僅に百中の二三に過ぎず、此の如き狀態の下に漫然自治を許すことは、恰も未だ成年に達せざる者に完全なる法律上の能力を與へんとするに等しく極めて危険なりと、此の説は一理なきに非ずと雖ども、然かも斯かる理由の下に早晚之を實現せしめざるべからざる自治的統治に對する訓練の機會を與ふることを避け、永く現狀を糊塗するが如きことあらんか、民族的自覺心の發達に伴ひ彼我の間に意志の疎隔を益々大ならしむるの虞れあるのみならず、終に

は憂ふべき結果を齎すことなしとせざるべし。

前に述べたるが如く吾人は理論上に於ても亦實際上に於ても、同化政策は少くとも朝鮮に於ては之を施し得べからざることを信する者なるが故に、既に同化政策にして行ひ得べからずとせば結局之に自治を許すか然らずんば其の獨立を認むる他なしと雖ども、朝鮮の獨立を承認するが如きことは、其の國力未だ獨立國としての體面を維持するに足らざる現狀の下に在りては勿論、假令獨立國としての體面を維持するに足る程度の發達を遂げたる後と雖ども、吾人は日鮮兩國は對外的にも對內的にも全く利害關係を一にし、相互の間に利害の相反するものあるを發見すること能はざるが故に、獨立國としての體面を維持せんが爲めに無益なる陸海軍備の新設重複せる行政機關の設置、其の他諸種の不生産的事業に巨額の失費を投じ、然かも其の得る所は國民の負擔の加重と、兩國多年の親交に一種の陰翳を投ずるに過ぎざるが如き愚を爲さんよりは、特に母國の利益を害することを目的とせざる限りは其の内政は之を鮮人の自治に委ね、母國は單に主權を掌握するに過ぎざる自治領土として、共存共保の大目的の下に兩國國民の永久的の提携親善を畫策するの賢なるに如かざるなり。

(五)

更に又一部の論者中には鮮人の自治的權能を認め、之をして政治上に參與せしむる一方法とし

て選舉法を朝鮮内にも施行し、以て母國の議會に代議員を選出せしむべしとなす者あるも、吾人は此の説に賛すること能はず、母國の議會に代議員を選出せしむる制度は夙に佛國に於て採用したる所なるも、其の成績は決して佳良なりと稱するを得ず、蓋し此の方法に依る時は植民地の議員は通常母國內に選舉區を有する議員とは諸種の事情に於て異なるものあるが故に、彼等は母國內に紛糾せる問題を生ずる時は往々之が爲めに利用せられ、甚しきに至りては買収等の目的となることあるも、直接自己の選舉區なる植民地の利益を増進せしめ得べき場合甚だ少し、是れ母國の議員は概して植民地の實況に關する智識及經驗に乏しきのみならず、又植民地議員の如くに痛切に其の利害關係を感ぜざるが故に、植民地に關して錯綜せる問題を生ずる場合には、寧ろ政府當局の意見に重きを置きて之に依らんとするの風あるを以て、特別の關係若くは事情の存せざる限りは少數の植民地議員の意見の如きは、實際上に於ては殆んど採用せらるゝこと稀なるべきを以てなり、此の如くんば植民地住民の參政權は其の名を與へて實を奪ふに等しく、却て紛争を後日に遺すものと言はざるべからず、故に將來鮮人に對して立法上に參與するの權を與ふる場合には、母國の議會に代議員を選出せしむるが如き姑息なる方法に依るに非ずして、全く獨立の議會を有せしむること、恰も英國の自治植民地に於けるが如くならしめざるべからず、然らずんば參政權の賦與は寧ろ百弊ありて一益なしと言ふも不可なからん。

要之、朝鮮の統治に關する吾人の意見は、先づ其の統治の根本方針を如何に決定すべきかに存し、其の根本方針にして確立せば爾餘の問題は自ら解決點を發見するに難からずと信するものにして、此の見地より吾人は統治の根本方針を自治主義に置かざるべからざることを提言すると共に、將來鮮人の教育及自治的訓練の普及後に於ては之を自治領となすも、其の時機に到達する迄は一時過渡時代の便法として行政各部に評議會の制度を附設し、鮮人中より有識有能の士を選出せしめて、上は總督より下は面長に至る迄重要なる政務は凡て之を行政評議會の議に附し、然る後其の施否を決せしむるの制度を採用すべしと言ふに在り、統治の根本方針を確立することは本にして官制改革の如きは末なり、未だ其の本を確立せずして徒らに其の末を修むるも統治上の不安は永久に終熄することなかるべし。